

自己評価公表シート

平成 31 年度 社会福祉法人徳風会

(実施期間：平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)

1、本園の保育目標

健康で安全な暮らしのできる子 自分のことは自分でできる子
友達と仲良く遊べる子 自分から進んで取り組み工夫する子 心情豊かな子

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

すべての課題の基となる人材の確保
保育の質の確保のための人材の育成
勤務環境改善に向けての業務の削減

3、

評価項目	取り組み状況
保育計画の計画・実施に関して、保育士間の共通理解を持つ	保育目標のもと、保育の計画に当たっている。 学年別会議等で共通理解を持つよう努めている
子どもの姿を的確につかみ、保育に活かす	子どもの生活の実態に合わせ、保育を行っている。 東部療育センター等の助言を受けている。
教育の質の向上のために、様々な研修に参加する。また、園内研修を実施する	県・市が行う研修に可能な限り参加している。 各年齢別の会議、給食会議等を行なっている。
保護者の思いの把握に努め、適切に対応する。	保護者からの様々な意見を真摯に受け止め、改善すべきことについては対応をしている。保護者参加の行事等で、園の考えを伝えるよう努めている。

4、項目別の評価の集計

* 評価を行い、上記のような結果が出た。具体的には、下記のような意見が出された。

項目	よく できている	まあまあ できている	あまり できていない	できていない
保育の計画性・共通理解	33%	67%		
計画に基づく保育の実施	17%	83%		
計画・実施の反省・評価	17%	67%	17%	
子どもの姿の把握	50%	50%		
保護者とのかかわり	17%	67%	17%	
関係機関とのかかわり	17%	83%		
研修への参加・実施			67%	33%

5、今後取り組むべき課題と、取り組みの成果

項目	具体的な課題の内容
保育計画の計画・実施に関して、保育士間の共通理解を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を把握し、成長に合わせた保育の計画・実施ができたと思う。子どもたちが互いに影響しあい、身の回りのことに進んで取り組む子が多く、この一年で食事・排泄、着脱面で、子どもたちの大きな成長を感じることができた。(乳児) ・担任が集まって話をする時間が取れず、個別に伝えあうことが多かった。勤務体制の違いや人手の少なさなど、一年を通して時間がなく、保育の準備や相談など何事もぎりぎりになることが度々だった。(乳児) ・幼児クラスになり新しい活動への取り組みが多かった為、職員同士が事前に話し合いを行い、共通の目的を持って保育をすすめられるようにした。その一方で、保育時間内で反省評価を話し合ったり、研修に参加したりする時間が十分に確保できなかった為、もう少し時間を工夫できれば良かったと感じた。(幼児) ・学年が上がり、一斉活動や集団活動が増えたため、職員同士で共通の目標を持ちながら事前にきちんと話し合い、保育の計画を立てたり、その後の反省を行ったりするようにした。しかし、保育士の都合や天候により計画していた保育が延期や中止になったり、大きな行事の前には前には遊びや活動をを取り入れることが出来なかったりした。今後は今回の反省を活かし、より良い保育が行えるように工夫していきたい。(幼児)
子どもの姿を的確につかみ、保育に活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の発達の様子や今後の取り組み、対応等、担任保育士同士で話し合い、情報共有するようにした。しかし、行事前は難しいときもあったので、より良い保育を行うためにも話し合う時間の確保が必要だった。(乳児) ・保育自体は日々の活動や行事などに子どもたちが意欲的で盛り上がり、手応え・やりがいがあった。(乳児)
教育の質の向上のために、様々な研修に参加する。また、園内研修を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加が思うように出来ずスキルアップの為にも、今後積極的に参加していきたい。 ・研修にはあまり参加できなかった為、機会があれば積極的に参加していきたい。
保護者の思いの把握に努め、適切に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との関わりについては、送迎時間帯により直接話せる人と話せない人で差が出てしまったことが気になった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・主活動が多く、自由遊びの時間が少なかった。年間を通して見直し、自由遊びの時間を確保できるよう予定を組むようにしていく。(年長)

6、次年度に向けて

各クラス、各保育士は、与えられた環境の中で懸命に保育に取り組んでいることが分かる。じっくりと余裕を持って課題に取り組む時間が取れるような環境整備をすすめていきたい。そしてその環境整備の一番大きな障害は、正規職員の不足であることは明白である。今年こそ、正規職員の採用・育成という根本的な課題を解決できるよう、取り組みたい。

また、正規職員の採用とともに、長く働くことが出来る環境整備にも取り組みたい。

昨年に続き、保育園の業務の見直しは随時行っているが、それ以上の業務の増加が伴っており、十分な業務の軽減効果は得られていない。また、事務職員の活用など、保育士業務の整理についても引き続き取り組みたい。